

第10章 復旧活動の実績と課題 1 ～被害状況の把握と記録～

今後も、大規模な水害の発生が想定される状況において、平成・令和の豪雨災害時における災害復旧対応の経過を記録・検証することは、再び豪雨災害に見舞われた際の復旧活動において、非常に有益である。

そこで、災害発生日以降の復旧活動から寺院活動再開までの経過を、当時の写真データや日記・メモ等を基に、時系列で下記の通り記録する。

なお、日時については、写真のデータより転記しているため、各種作業等の実際の開始時間は、それよりも早いと想定される。

第1節 被災後の初動 ～被害状況の把握と記録・危険箇所の選定～

被災後、最初を実施すべきことは、被害状況の把握である。寺院屋体の損傷や寺宝・文化財及び寺院の備品、生活物品等の被災状況と危険箇所を的確に把握し、安全確保を最優先とする。その後、適切な復旧計画を策定していく。

また、各種保険の適用のためには、不動産・動産の被災状況を把握し、記録しておく必要がある。

ここでは、平成・令和の豪雨災害時の画像や記録を基に、成果と課題・改善点と今後の方針を記載したい。



第2節 平成・令和の豪雨災害における実績

第1 平成30年8月5日～

日付	時刻	撮影箇所	人数	道具	内容・詳細
8月6日	4:46～	寺院全体	家族	携帯・カメラ	起床後、寺院屋体・屋内・境内の被害状況の撮影を開始
8月7日	11:15～	外トイレ	1人	携帯・カメラ	外トイレの <u>撮影洩れ</u> に気が付いたため、撮影した
8月8日	8:37～	本堂	1人	カメラ	本堂須弥壇周辺の <u>細部の撮影漏れ</u> に気が付き、 <u>再撮影を実施</u>

第2 平成30年8月30日～

日付	時刻	箇所	人数	道具	内容・詳細
8月31日	7:11～	寺院全体	家族	携帯・カメラ	寺院屋体・屋内・境内の被害状況の撮影を開始。
8月31日	12:25～	境内	1人	携帯・カメラ	本堂・物置等の境内を撮影

第3 令和6年7月25日～

日付	時刻	箇所	人数	道具	内容・詳細
7月26日	9:42～	境内・室内 観音堂	住職 副住職	携帯・カメラ	境内・寺院内・ 観音堂 ・弥吉沢の全てを撮影開始。
7月29日	15:30～	金庫	〃	〃	寺宝の確認漏れに気が付く 。寺宝絵巻の無事を確認
7月30日	11:52～	離れ 風呂場	〃	〃	撮影漏れ箇所を撮影
8月2日	15:16～	漬物小屋 物置	〃	〃	撮影漏れ箇所を撮影

第3節 活動実績の検証 ～成果・課題・今後の方針～

第1 開始時期・日程等について

成果:被害状況の把握を、被災直後からある程度開始することができた。これにより復興の方向性を、大まかではあるが打ち出すことが出来た。

課題:**被災のショックにより呆然自失**となってしまう、初動が遅れてしまった部分もあった。

方針:適切な復旧・復興計画策定のためにも、**被災状況・危険箇所の迅速な把握と安全確保を第一優先**とする。

2 順序・箇所・内容

成果:平成・令和の豪雨災害による経験から、ある程度確立することが出来た。

課題:災害の度に対応が異なるため、**2度手間、3度手間が発生**した。

方針:被災状況の把握について、**順序・箇所・把握すべき内容**を事前に定める必要がある。

3 担当者の設定

成果:住職・副住職・寺族一同で実施した。

課題:担当者を明確に設定しておらず、寺族それぞれが撮影していた。また、**被災直後の安全性を確認できない状況で、一人で撮影**することもあった。

方針:**複数人体制による被災状況把握**を設定したい。

4 撮影道具

成果:寺族各自の携帯カメラを活用することで、対応が出来た。

課題:寺族各自の携帯カメラを活用したため、後の情報の集約化に手間取った。**寺院のコンパクトデジタルカメラは防水・防塵仕様ではなく、浸水により使用不可能**となった。

また、被災直後、**寺院の電源は消失しており、携帯・デジカメの充電ができず、観音寺公民館まで戻ってしなければいけなかった。**

方針:停電時における充電・電源供給方法の確立と、防水・防塵仕様のデジタルカメラを整備したい。

5 服装・作業着

成果:無し

課題:平成・令和の水害において、作業着ではなく普段着で防災・減災・復旧作業を実施してしまっている。令和の水害では、長靴も流されてしまったため、サングラスで被害状況の撮影を行った。

その結果、副住職が感染症にかかり、38.7℃の高熱を出してしまう事態となった。

方針:被災前の防災・減災対策作業、被災後の復旧作業の服装や道具について、リスト化と一括した保管場所を設定する。

6 総括

今回の水害に備え、下記の事項を整備する。

- (1) 水害発生直後は、被害状況の把握と記録・危険箇所の選定を迅速に行う。
- (2) 被害状況の把握箇所・順序・内容・項目を詳細に設定する。
- (3) 寺宝・文化財等の被災状況の確認を、必ず実施する。
- (4) 担当者を設定し、迅速な対応を心がける
- (5) 撮影機材や電源を確保する。
- (6) 防災・減災対応、復旧作業のための服装・作業着・長靴・胴長・軍手・ヘルメット等の道具等をリスト化・一括管理する。